

モデル名称	METI-LIS ver.3.01		
開発国	日本	開発機関 開発者	経済産業省 (独)産業技術総合研究所
入手方法 (URL・価格等)	WEBから入手可(無料) http://www.jemai.or.jp/CACHE/tech_details_detailobj1816.cfm		
モデルの 目的概要	<p>先端産業技術などの発展に伴い、多種多様な有害科学物質が製造、使用されており、我が国においても「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」によってその管理がなされている。しかし、技術の国際化に伴い、これらの有害物質の一国だけでなく、全世界に影響を及ぼすことが懸念されるようになり、平成4年(1992)6月に開催された国連環境開発会議(UNCED)で持続可能な発展のための人類の行動計画(アジェンダ21)が採択された。これを契機に有害物質の適正な管理に関して、企業の自主的な取り組みの重要性が認識されるようになった。</p> <p>これにより環境庁と通商産業省は「事業者による有害大気汚染物質の自主管理促進のための指針(自主管理指針)」を作成し、当該指針に基づき業界団体に対して有害大気汚染物質の排出状況を把握し、排出を抑制するために必要な措置を自主的に講じる「自主管理計画」の策定を要請した。</p> <p>通商産業省は従来からSO_x、NO_x等の物質に関して環境予測評価を実施してきたところであるが、有害大気汚染物質の排出源はSO_x、NO_xと異なり、建屋排出等地上付近での排出により、地物の影響を受け、従来の大気拡散モデルでは環境予測評価は不可能と考え、建屋の影響を考慮した大気拡散モデルを開発することとした。</p> <p>開発にあたっては、米国環境保護庁のISC(Industrial Source Complex)モデルを基本とし、地上濃度分布の再現性を向上させるよう複数の工場内でのトレーサーガス拡散実験、同工場に於けるベンゼン等の分布測定、風洞実験を実施して、ISCモデルの拡散パラメータを見直し、建屋の影響を考慮した大気拡散モデル(経済産業省一低煙源工場拡散モデル:Ministry of Economy, Trade and Industry-Low rise Industrial Source dispersion MODEL; METI-LISモデル)を開発した。</p>		
長所 ・ 有効性	ダウンウォッシュを考慮した拡散モデル		
短所 ・ 活用限界			
参考文献 (文献・URL等)	<p>1.社会法人 産業環境管理協会 http://www.jemai.or.jp/CACHE/tech_details_detailobj1816.cfm</p> <p>2.METI-LISモデル ver.3.01取扱説明書 http://www.jemai.or.jp/JEMAI_DYNAMIC/data/current/detailobj-4366-attachment.pdf</p>		